

# ハグワオッシュ シンポジウム

## きょうから京都で開催

1975.8.28  
誌

【京都】完全な核軍縮を求めて、世界各国の科学者が政治的立場を隔れず意見を交換する第二十五回ハグワオッシュシンポジウムが十八日から京都市左京区、国立京都国際会館で始まる。日本では初めて、湯川秀樹京都大名誉教授、朝永振一郎東京教青大名誉教授の両ノーベル賞受賞者が、京都シンポジウムを組織した二つの国際組織から三十六人が参加する。

シンポジウム主催者はロンドンに事務局を置く「ハグワオッシュ協会」(議長B・T・フェルド・ロンドン大教授)。同協会は一九五五年B・ラッセル卿(キリ)とA・アインシュタイン博士(アメリカ)のいずれも故人が全世界に核兵器の危険性を訴え、紛争解決に平和的手段を見いだすよう勧告した「ラッセル・アインシュタイン宣言」を、一九五七年七月、署名者たちがカナダのパグウォッシュで初の「平和会議」を開いたことから、この協会の名がつけられている。

いすれも個人資格で参加、討論内容には世界平和全般にわたり、会議のついで決議や会議録を各国政府に送るなど関係方面に送って、国連総会での全面完全軍縮の決議採択(一九五九)軍縮に関する米ソ共同宣言(一九六〇)さらに部分的核実験停止協定の成立(一九六八)兵器体系の世界の問題に及ぼす諸

影響と核エネルギー、テクノロジ和平目的の核爆発などからひき起されつつある核拡散の問題③核軍縮への第一歩、例えは核不使用条約(完全軍縮への諸段階と日程)となっている。参加者はラッセル・アインシュタイン宣言署名者中たまた二人の生存者である湯川博士、J・ロートブラット・ロンドン大教授(前パグワオッシュ協議会事務局長のシユタイン教授、豊田教授が今ほか、日本側から朝永博士、豊田博士、ロートブラット教授、エブ利幸名古屋大教授(今シンポジウム事務局長)小川岩雄立教大教授

### 世界の学者 核軍縮の道を探る

c092-17-036